R＋BOT

聖心女子学院　五年　三國　礼華

二〇××年・・・。R＋BOT研究所。私は、うす暗い研究所のろう下を歩いていた。

「コツ・・・コツ・・・。」

くつの音が規則正しくひびく。私は足を上げた。へ研究室・・・。ここか。」

「コッコッ、コッコッ、失礼します」

私が研究室に入ると、白髪交じりのおじいさんがこちらを見上げた。この人が、R＋BOT博士である。R＋BOT博士は、これまでに多くのロボットを生みだし、ばく発させたりプログラムを間ちがえたりと失敗もしているが・・・。と、博士の説明はここまでにして、今日博士が作り上げた新ロボットをご紹介しよう。

その名もヤマネコロボット221Rだ。このロボットは、宅配業者の代わりに荷物で持ってきてくれる、便利なロボットである。全身真っ白で三角形の耳がちょこっとのぞく

ロボットは、ネコの形をしている。ヤマネコロボットの仕組みはこうである。まず、お客さんがインターネットで商品をたのむ。配達方法で「ヤマネコロボット221RL」を選び、決定ボタンをおす。すると、ヤマネコロボットに電波がとどく。ロボットは住所をインプットし、おなかの箱に商品をつめて出発！

そして、注文した当日にとどけてくれるというわけだ。このロボットは、多くの人々に愛用される・・・であろう。

私がこんなことを考えたのは、宅配業者の長時間労働やドライバーの不足が問題になっているのを朝のニュースで見たからだ。このロボットの商品のとどくスピードのかげには、動力源となる電気の存在がある。

この作文に取り組むことで、スイッチを押せば照明やテレビがつく電気のありがたみを再認識した。これからは、必要のないところの電気はこまめに消し、研究や動力源に有効活用できるように電気を大切にしていきたい。

20×20